

神の民となる幸い 詩篇 144:1-15	2023. 6. 18、丘の上 NO. 702 春日部福音自由教会 山田豊
-----------------------------	------------------------------------------

人間であればだれでも、人とは何か、自分とは何者なのか、と自問自答するのではないかと思います。あらゆるものが進歩した時代にあっても、「人間とは何か」という問いかけがなされ、科学や文学などあらゆる方向からこの問いを探り、その達したところでの話をメディアなどで明らかにされてきています。どれが正解かはわかりませんが、やはり人は、幸いな人生を送りたいと願っているのでしょう。

本詩篇は、1-11節は一人称で書かれています。1-2節は神への賛美、3-4は自らの嘆き。ここに「人とは何者なのか」という言葉があります。5-8は神への訴え、9-11は自らの果たすべきことを誓っている部分です。そして12-15節は二人称で書かれており、詩人の願望と人としての教訓が描かれています。15節は全体をまとめる言葉ともなっていると言えます。

3節、4節にある人は、アダムです。人の子とは、人類全体をさす言葉だと思われます。確かに人は、地のチリから造られました。なので、4節にあるように人はまことにはかない、影のようにいつか消えていってしまう存在です。自分はいったい何なんだろうか、生きている価値があるのかなどとってしまうものです。

しかし人は、神のかたちに造られた生き物です。この点が、他の動物と違うのです。また、ここに人の命の尊さの根源があります。どんなに自分で自らを卑下するようなことがあっても、また、他の人から正しく評価されなくても、あなたが神のかたちに造られていることは間違いないのです。神のかたちとは、まさに人が人格的な存在であり、造り主である神のいのちに生かされている者であることを表しています。肉の誕生による私たちは、そのことをなかなか理解することができません。しかし神はイエスキリストを人の姿を取った神としてこの世に遣わし、この方を信じることによって新しく生まれさせて、神の子としてくださったのです。主なる神の民として、私たちを招いてくださったのです。このことを覚えるものは、実に幸いな者であると言えるのです。

しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。13 この人々は、血によってではなく、肉の欲求や人の意欲によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。ヨハネ 1:12-13

引用聖句

創世記 2:7 神である【主】は土地のちりで人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。そこで人は生きものとなった。

創世記 1:27 神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。

ヨハネ 1:12-13 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。13 この人々は、血によってではなく、肉の欲求や人の意欲によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。

聖歌 357

- 1 平和をば愛したもう 天と地の造り主よ
え堪ぬ試みより 祖国を守り給え
- 3 われらを汝が民とし 外国の奴隷とせず
原爆と疫病とより 祖国を救い給え